

野分のまたの日こそ、いみじうあはれにをかしけれ
(台風の次の日は、とてもしみじみとして趣きがある)

『枕草子』の一節です。

木の葉が格子に散らばっている、髪の毛が風に吹かれて乱れているといった、自然と人々の様子を描いた、有名な部分です。

ただ、貴族と庶民では全く生活が異なっていた平安時代。庶民にとって台風は水害をもたらすものであり、場合によっては疫病がはやる可能性すらあったわけで、決して「趣深い」とは言えなかったのでは？と思います。

明日の台風でも、宇都宮の多くの学校が休校になってしまいました。台風は社会に大きな影響をもたらします。雨はそれなりですが、風は相当に強そうです。自然の美しさよりも、まずは安全第一で動いてください。

それにしても、本来野分は秋の季語であって、6月3日(旧暦なら4月18日)にやってくるとは、清少納言も予想だにしていなかったでしょう。地球温暖化の影響だとすれば、これから地球はどうなってしまうのでしょうか……。

